

# 「命綱」の生活保護 真の支援の制度として運用を！

## 就労支援には専門の支援員配置

### 水道給水停止時などの連携強化も

生活保護行政が、命や暮らしを守り「自立」を支援する立場から行われるよう、一般質問を行いました。

制度や申請についてわかりやすく広く広報すること、受給者にも制度の説明を十分に行いアルバイト代の申請が漏れる等の行き違いがないように、と提案しました。



また、水道が給水停止されるような世帯は経済困窮の度合いが高いので、機械的に停止するのではなく、社会福祉課との連携で必要な人には生活保護制度を知らせる必要があることも指摘しました。

国は「自立支援」の体制を厚くするために全額国費で支援員の配置を行っています。伊勢崎市の就労支援員にハローワークOBなど専門性が高い人が配置されていない問題については、「今後検討していく」との答弁を得ました。

さらに、昨年10月から警察官OBが生活保護の窓口に臨時職員として配置されていることも、「社会福祉主事しか保護行政にあたれないとする法令に違反する」と批判。改善を求めました。

## 「反貧困キャラバン」が

### 伊勢崎市に要望書提出

貧困問題の解消などを訴えて全国を巡る「反貧困全国キャラバン2012」が、10月2日に伊勢崎市役所をおとずれ、福祉部長に要望書を提出。国民健康保険証の取り上げをなくすことや、生活保護行政の適正な運用、

不当な税金徴収の是正などを求める要望書を手渡しました。市議団も同席しました。

生活保護は高齢や病気・障害などで働けない人、医療費を払えない人を助ける最後の「命綱」です。受給者が増えたのは、小泉構造改悪で「格差」が拡大してきたからです。

国の悪政が保護費を増やしたのに、マスコミ主導の「削れ！」というキャンペーンは異常です。

保護費が下がれば、これを基準とする社会保障や年金なども引き下げられます。「生活保護制度の改悪ノー！」の声をあげていきましょう。

